

第3回市民生活専門委員会での主な意見

平成26年1月23日

市役所6階大会議室

(コミュニティ)

- ・「互助精神、コミュニティ意識の醸成」の施策の方向については、表現がくどい印象を受けるので、少し見直ししてはどうか。
- ・「身近な地域課題に住民自らが取り組む仕組みづくり」の行政支援に関する部分については、「鶴岡パートナーズ事業」や「鶴岡いきいきまちづくり事業」など、前期で取り組んだ事業を評価しながら、もっと具体的なものが見える表現にしたほうが良い。
- ・コミセン化に伴う機能拡充のために十分な支援をお願いしたい。
- ・地域活動の担い手の確保、リーダーの育成のために、より多くの青年層を取り込み、様々な事例を互いに共有し刺激しあう道筋をたてることが重要である。

(防災)

- ・避難所の防災資機材の整備も重要だが、耐震化のチェックについても意識した表現にしていただきたい。
- ・現在使用出来ない防災無線の整備を進めてもらいたい。

(防犯体制)

- ・地域防犯体制の中にも防犯灯のLED化に対する評価を盛り込んだらどうか。
- ・児童生徒の犯罪防止や交通安全対策のための見守り活動支援については、様々な分野との繋がりの中で生きてくるものなので、横の連携が見える形での支援を行っていただきたい。

(防火対策)

- ・「新たな住宅防火対策の推進」の施策の方向で、「住宅からの出火防止」と住宅に特化している表現だが、空き家についての対応・対策についても対応策をご検討いただきたい。

(消防団)

- ・消防団活動協力員制度の補償について、事故の際の対応も心配されることから、ないとすれば補償の仕組みづくりをお願いしたい。
- ・自主防災組織・消防団・消防署員の3者が一体となって行動していく体制づくりをやっていただきたい。

(廃棄物処理施設)

- ・新しい廃棄物処理施設については、モデル的な立派な施設を作って欲しい。

(ごみ減量化・資源化)

- ・「ごみ減量化・資源化の推進」の「民間主導型の」という表現は、「市民事業者による」あるいは「市民事業者主体の」という表現の方が適切ではないか。
- ・ごみ減量化については、分別の大切さを強調した表現にして欲しい。

(再生可能エネルギー)

- ・再生可能エネルギーの導入拡大の施策については、小規模水力発電と木質バイオマスの2つだけではなく、太陽光や風力等についても記述してはどうか。

(環境保全)

- ・高齢化に伴い、中山間地の田んぼの荒廃が進んでいるので、その保全に対する取り組みについても進めて欲しい。
- ・不法投棄の問題について、キャンペーンをやるなど市民の意識啓発を行ったり、汚染される可能性がある中山間地に焦点を絞った取り組みを行って欲しい。

(計画全般・その他)

- ・総合計画の実践にあたっては、住民を交えて実施工程表を作成し、市民と協働で実践する形をとれば計画が活用されていくのではないか。
- ・原発事故の放射能の風評被害などの相談に対する市の窓口を設けるべきではないか。